

平成29年度財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

- ① 建物……定額法(該当なし)
- ② 什器備品……定率法(該当なし)

(2) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借り主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理による。

なお、リース物件は下記の1件である。

- ① コピー複合機(京セラ製) 残存リース料 133,920円(4,320円×31回)

(3) 消費税等の会計処理

税込経理方式を採用している。

2. 会計方針の変更

会計方針は発生主義によって計上しており、変更はない。

3. 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残額は次のとおり。

(単位;円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	10,000,000	0	0	10,000,000

4. 基本財産の財源等の内訳

(単位;円)

科目	当期末残高	備考
基本財産 定期預金	10,000,000	三菱UFJ信託銀行名古屋支店

5. その他の固定資産「陶磁器意匠データベース(食卓台所用品)」について

当法人設立以来の継続事業である「意匠保全事業」において保全登録された意匠(食器、ノベルティ、タイル)約18万件の紙媒体データのうち、食卓台所用品約8万余件の保全登録証(控)を

電子化し、検索キーワードを付したデータベース構築を行うため、平成25年3月期に、特定資産として「登録意匠デジタル化積立資産定期預金」953万円を設け、平成25・26年度事業として実施した。平成27年3月、システム構築・電子化作業・検索キーワード設定作業はほぼ完了し、平成28年1月に公開した。

このデータベース構築に要した953万円を、資産管理の立場から27年3月期から貸借対照表に記載し、当該データベース取得額として「その他の固定資産」に、その見返り額同額を「固定負債」に計上している。

6. 「建物」勘定及び固定負債「資産見返り額」勘定について

「建物」勘定は、本部を置く「日本陶磁器センタービル」(昭和33(1958)年4月起工、同年12月完成)の建設費の本財団負担分に関わるものであって、全額償却済みだが、備忘価額として表示している。当該ビルの管理は一般財団法人日本陶業連盟が行っている。

7. 担保に供している資産

該当なし

8. 保証債務等の偶発債務

該当なし

9. 重要な後発事象

特になし

以上